

『西東京市男女平等参画推進計画』に関する市民意識・実態調査ご協力のお願い

西東京市では、「一人ひとりが自分らしく自立し、いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす」を基本理念に掲げ、男女平等参画のまちづくりを推進しています。めざしている社会の実現には、市民の皆様をはじめ、企業や市民団体、行政が一体となって取り組むことが必要です。その取り組みの中で、来年度「第3次男女平等参画推進計画」を策定することとなりました。計画策定に当たっては、市民や団体の皆さんからご意見を伺う予定です。その一環として本調査では満18歳以上70歳未満までの2,000人の方を対象に意識と実態を伺わせていただきます。調査票が送られる方は設問に沿ってお答えいただき、10月22日(月)までに同封の返信用封筒で返信をお願いします。

※「西東京市男女平等参画推進計画に関する市民意識・実態調査」につきましては、西東京ホームページに掲載されます。
 《西東京市ホームページ：http://www.city.nishitokyo.lg.jp/》

西東京市男女平等推進センターパリティ企画運営委員会委員自己紹介

加藤 眞理：企画運営委員を受けて3期目になります。その間にはワークライフバランス、災害時の男女平等、女性の就労など時代に即した企画を進めてきました。これからも誰もが暮らしやすい社会を目指し、市民の関心のある講座を企画していきたいと思っています。

金子 馨子：今年度から企画運営委員をさせていただくことになりました。男女平等、ジェンダーの視点にたった講座開催を通して、市民の方々と共に学んでいきたいと思っています。世代を問わず、多くの方に“パリティ”を利用していただけるような企画を考えていきたいと思っています。

齋藤三枝子：パリティが開館して5年が経過しました。その間、企画運営委員として、時代に即した講座、講演会などを企画したいと、月一回の委員会で話し合い知恵を出し合って進めてきました。3期目を迎えまた意気込みも新たに皆様に役立つ企画、運営を目指してこれからの2年間を努めたいと思っています。

田崎 吉則：第3期の企画運営委員会に加えていただきました田崎吉則と申します。小学生の一男一女がおり、地域に関わり、パパ仲間を増やしたいと思っています。地域で影が薄い現役パパたちが、参加しやすい「パリティ」にしていけるよう、パパの立場で、関わっていきます。よろしくをお願いします。

鶴崎 紀子：企画運営委員2期目となりました。私は「男女平等」について関心があり、企画運営委員として活動しています。学生ではあまり感じなかった男女差別ですが、社会に出ますと明らかに男女で収入や昇進といった面で差別を感じます。男女差別、男尊女卑、このような言葉が死語になるような明るく前向きな企画を実施して行こうと思っています。

成田 啓子：企画運営委員として、今期で2期目になります。力不足な部分もありますが、先輩方を見習い、柔軟な発想で講座や講演会の企画をしていきたいです。地域の皆様に身近な所から男女平等について考えていただけるよう努めて参ります。宜しくお願い致します。

松本 和子：男女平等と唱えながら自分の中にあるジェンダーの壁に気付かされ驚いています。歴史など学びながら自分の中にある矛盾を克服して真の男女平等社会の実現にむけて微力ながら頑張っていきたいと思っています。パリティが市民の中に男女平等センターとして位置付き、学び交流の場となることを願って活動していきたいと思っています。

本橋 里実：10代20代の母親支援を、市の保健師さんや心理の先生、地域の協力をいただきながら活動しています。子育ての切り口から男女共同参画への若い世代の関心を広めていけるよう、試行錯誤し勉強の毎日です。相手を思いやり尊重することは全てに通じることですもの。

第5回 パリティまつり

[講演会] 講師 山本 コウタローさん

～女性・男性、手をとりあえる社会とは・・・?～

2月3日(日)14:00～16:00 (13:30開場)

会場：住吉会館 ルピナス

会場：住吉会館4階大広間

[パネル展示期間] 平成25年1月27日(日)～2月8日(金)

*詳細は市報、市のホームページ、男女平等情報誌[パリティ]などでお知らせします。

[その他] 2月2日(土)・3日(日)

各講座、リサイクルバザー、喫茶、軽食、雑貨販売

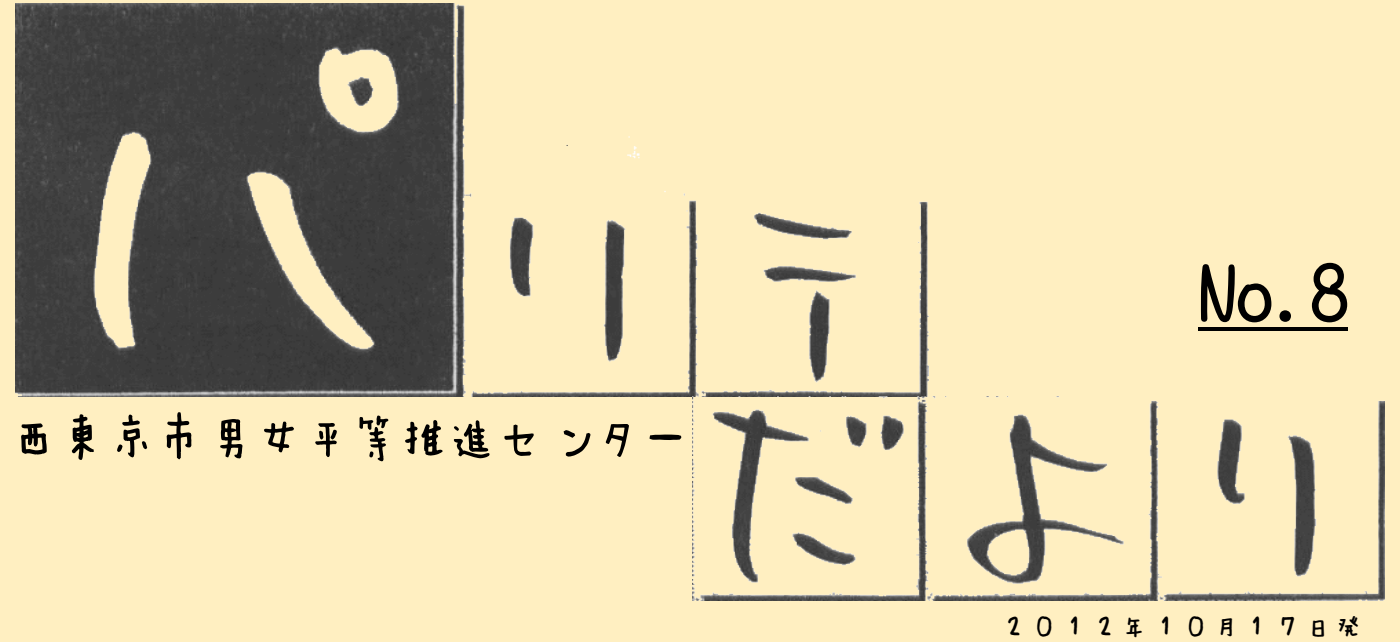
2012年10月17日発行

発行 西東京市生活文化スポーツ部協働コミュニティ課

企画・編集 男女平等推進センター パリティ企画運営委員会

編集担当 加藤 眞理 金子 馨子 齋藤 三枝子 松本 和子

〒202-0005 西東京市住吉町6-15-6 住吉会館ルピナス内 ☎042-439-0075 FAX 042-422-5375(共通)



女性に対する暴力をなくす運動週間に「DV防止普及啓発パネル」の展示

配偶者暴力(DV)は身近で起きています

Q 配偶者から一度でも暴力を受けたことがある女性はどのくらいでしょうか?

①3人に1人 ②13人に1人 ③25人に1人

A ①3人に1人

女性の3人に1人が、何らかのDV被害を受けたことがあり、10人に1人は何度も受けたことがあると回答しています。^{①)}
 また、DVは個人的な人間関係の問題と考えられがちですが、「夫が妻に暴力を振るうのはある程度は仕方がない」「収入の多い方が家族を養っているのだから、言うことを聞いて当然」等の社会通念や先入観など、個人のことで片付けられない問題も大きく関係しています。

ポイント
 DVは、特別なことではなく誰にでも起こりうる問題です。

①)出典：中野明(1998)「男女間における暴力に関する調査」平成24年4月

東京都 東京ウイメンズプラザ

子供にも影響を与えます

子供のためには暴力を受けても我慢した方がいいのでしょうか?

配偶者暴力(DV)のある家庭では、同居する子供にも加害者から直接暴力が及ぶケースが半数近くあります。^{②)}
 子供に直接暴力が及んでいなくても、児童虐待防止法では、DVを目撃することなど著しい心理的外傷を与えることも、虐待であるとされています。

ポイント DVは、一緒に暮らしている子供にも深刻な影響を与えます。子供の安全のためにも、まずは専門の相談機関に相談することが重要です。

②)出典：東京都配偶者暴力被害の実態と関係機関の連携に関する調査(平成21年3月)

東京都 東京ウイメンズプラザ

女性に対する暴力をなくす運動週間に啓発パネルを田無庁舎2階ロビー・住吉会館ルピナス1階交流ホールに展示します。パネル展示期間：11月12日(月)～21日(水)



「女性への暴力反対タペストリー作り」ワークショップ開催

11月12日(月)午前10時～午後3時 会場：田無庁舎2階ロビー

女性への暴力に反対する意味を込めて、好みの布でメッセージを記入したバラの花を作って、タペストリーに咲かせます。ご参加ください。

- P1、 講座・講演会報告 -参加者からの声-
 - P2、 これからの講座・講演会案内
 - P3、 「西東京市男女平等参画推進計画」に関する市民意識・実態調査ご協力のお願い
- 第3期企画運営委員会委員自己紹介

笑って考えよう！家庭のこと、仕事のこと、未来のこと！

講師：瀬地山 角さん せちやま かく 東京大学教授

7月7日（土）10：30～12：30



瀬地山角さん

- 大変興味深いテーマでした。社会の仕組み、自分の意識、パートナーの意識が複雑に絡み合っ、なかなか一度に全てを変えるのは難しいですが、少しずつ自分の意識からでも変えていこうと思いました。（40歳代男性）
- ジェンダーについて、男性から(それも育児中の!!)お話をうかがえるとは、非常に貴重な体験になったと思います。今、男女が感じている生きづらさというのは、そのまま次の世代に受け継がれてしまうのだと思います。夫婦間から働きかけることで、長い目で見れば大きな変化を起こせるようになるのでしょうか。子どもたちは私たちの未来です。ジェンダーについて知る機会があったことをチャンスと思って、考えに考えて、少しずつ動いていきたいと思いました。（30歳代女性）
- (抜粋) ワーク・ライフ・バランスについて以前からやはり収入の面でどうしても引っかかっておりました。子どもとの時間を取りたい、だから生活レベルを下げていいか？とはなかなかパートナーには言い出せず。またそうしたいと心では思っていない事がわかっています。しかしそれは自分ひとりで何とかするという事に、立脚しているからということでした。改めて家族ユニットとして考えを話し合い進めようと思います。（30歳代男性）

子どもの護身法 すきっぷプログラム

講師：NPO 法人エンパワメントかながわ スタッフ

7月28日（土）14：00～16：00



- 子ども向けのプログラムは、実践的でわかりやすかったと思います。大人向けは、子どもの話しの聞き方まで教えていただき、子どもの気持ちを受け止める場所までが護身になるのだと実感しました。（30歳代女性）
- 体を使う護身講座に参加してみたいです。大人も子どもも体験してみたり、知識を持っていたりすることが大切だと思うので、とてもためになりました。特に、子どもにとっては悪い人＝見かけが変というイメージがあると思うので、そうではないということを知っておくのは、大事だと思いました。（30歳代女性）

女性学を学び、自分らしさを見つける連続講座

講師：加藤 千恵さん 東京女子学館大学国際教養学部教授

9月8日（土）、15日（土）、29日（土）13：00～15：00



- 一世代前とは私たちの性役割分業意識も変わってきていることがわかり、「男らしさ、女らしさ」よりも「自分らしさ」を大切にすることが、これからの男女平等社会を作っていくのだと感じました。しかし、まだまだ、世間の中にジェンダーの偏った認識も沢山あることを知り、ひとりひとりの意識を変えていく必要があるのではないか？と思いました。（40歳代女性）
- 子育て2年間で感じたこと、悩んだことと重ねて聞くことができました。女性だから母性愛を持たなければならないという「思い込み」から解放されそうな気がしました。3回の講座を通してジェンダーのメガネをかけている事がいかに多いかを実感しました。そして女性だから、母親だからという事での子育ての実態。育児不安になったり、虐待したりなど女性が必ずしも育児に優れているとは言えない事実。そして”イエ（家）意識”の中のお墓や夫婦別姓等原因がジェンダー意識であり、気付かないうちに社会や生活を支配している事実。「目からウロコ」の思いでした。この講座を多くの人に聞いてもらうことが男女平等につながると思いました。パリの企画としてはふさわしく毎年でもよいと思いました。（40歳代女性）

これからの講座・講演会案内

日時	タイトル	講師
10月13日（土）、28日（日） 午後1時～3時	「自分も相手も大切にする コミュニケーション講座」	堤 暢子さん アサーティブネスの EWN 認定ファシリテーター
10月20日（土） 午前10時30分～12時30分	「日本の働く母親とアメリカの働く母親、 どっちがしあわせ？」 ～政府・企業や夫婦関係から考える～	治部 れんげさん 経済誌記者
11月16日（金） 午後1時30分～3時30分	「あなたを幸せにする老い支度と がんばらない介護」	野原 すみれさん 高齢化社会を良くする 虹の会委員長
11月17日（土） 午前10時～12時	「大切なことわかって欲しい」 ～助産師と考える思春期の性～	三原 路子さん 葛飾赤十字産院助産師
12月1日（土） 開催時間未定	「子育てしている私、強くなりたい」 ～母親45人のドキュメンタリー映画の 上映とトーク～	小林 七子さん・園田 英人 さん・塚田 幸恵さん (子育て支援 NPO 法人 子育てコンビニ)
平成25年1月 開催日時未定	「これからの私の行き方、 考え方をかんがえる」	武信 三重子さん 和光大学教授
平成25年3月 開催日時未定	「ベビーマッサージに チャレンジしませんか？」	菊池 由香里さん ベビーマッサージセラピスト